

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人西春日井福祉会)

事業所名 (特別養護老人ホーム平安の里)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介護	FUJI 移乗サポートロボット HugT1-01		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月25日	2台	令和4年2月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

特養2ユニットに各1台導入

前回の報告書では使用者2名だったが、現在、5名の入居者、利用者に使用している。

(1) 前回の報告者2名

- ・T様男性80代、要介護5 認知症自立度：M
- ・M様女性90代、要介護5 認知症自立度：Ⅲa

この利用者に関しては、導入後、継続してハグを使用している。現在、トイレの際に使用するだけでなく、ベッドから車椅子、車椅子からベッドへの移乗時にも使用している。

支持が入りにくい入居者ではあるが、ハグを頻回に使用していることで、認識している様子も伺える。掴まる際も、当初よりもスムーズに腕を伸ばす等の動作ができるようになってきている。

(2) 新しく使用している利用者3名

- ・Y様女性80代、要介護4 認知症自立度：Ⅲa

導入前…排泄の訴えあり、二人介助で実施していた。ただ立位が不安定のため、職員1人が体を持ち上げ、1人がズボン等を上げ下げしていた。職員の身体への負担が大きく、入居者自身も脇を抱えて持ち上げていたため、身体への負担は大きかった。

導入後…職員、入居者共に身体への負担が軽減した。職員の業務時間の短縮にも繋がった。現在、入居者もハグのことを認識しており、排泄時には動作がスムーズに行えるようになってきた。

- ・Y様男性80代、要介護3、認知症自立度：自立

導入前…排便時に訴えある。職員、2人介助にて対応していた。利用者、職員共に身体的な負担があった。

導入後…職員、利用者共に身体への負担が軽減した。職員の業務時間の短縮にも繋がった。利用者のQOLの向上に繋がった。

- ・H様男性80代、要介護5、認知症自立度：Ⅲa

導入前…昼夜おむつ対応だが、移乗時に足底が床にしっかり着くことができたことから、二日中だけでもトイレでの排泄が可能ではないかと考え、支持が通りづらい方ではあるが、ハグを導入しているユニットであったため、試してみることにした。

試したところ、グリップを握る等の動作を介助したところ、しっかりと握ることができ、身体も安定していたため、使用することにした。

導入後…利用者のQOLの向上に繋がった。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 樺会)
事業所名 (老人保健施設 満天星)
サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介助		イノフィス マッスルスーツ Every	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年10月26日	4台	令和3年10月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 コロナ禍において、予防着等を装着し業務に入る事が多くなり、手間(予防着・スーツの着脱)がかかるということで、スーツを使用する頻度はかなり少なくなっている。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 上記の理由により、業務を円滑に進める事が最優先になっている状態の為、現状、効果という事では、あまり見られていないと思われる。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
-----------------	--

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 清水会)
 事業所名 (まこと老人保健施設)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗・排泄介助等支援		マッスルスーツ Every	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月13日	4台	令和3年12月13日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・フロアでの介助用、入浴介助用をそれぞれ2台ずつ(S~M、M~L各1台)設置している ・腰痛のある職員が優先的に使用し、主に排泄介助、入浴介助などの長時間継続して腰への負担が大きい業務時に装着している 			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) <ul style="list-style-type: none"> ・使用に慣れれば大きくはないが介護時間の短縮に効果がある ・使用することで作業時の職員の腰への負担は軽減している ・短時間の移乗介助などより、ある程度長時間腰への負担が継続する業務に使用したほうが効果を感じやすい ・昨年度、腰痛が理由での退職はなかった ・使用することによる利用者、家族からの苦情や事故の発生はなかった 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 ((福) 恩賜財団愛知県同胞援護会)
 事業所名 特別養護老人ホーム第2とよた苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品	
移乗介助		ロボヘルパー SASUKE	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月1日	2台	令和3年12月7日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p><1台目> 3Fユニット、立位不可の体大きい男性入居者に使用。1日6~7回、車椅子からベッドへの移乗時に使用。</p> <p><2台目> 4Fユニット、立位不可、長身で足・腕に拘縮がある女性、男性入居者2名に使用。1日6回程度、車椅子からベッドへの移乗時に使用。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p><職員> ・介護者の身体的負担の軽減(特に腰)。 ・ロボットを使用する事への不安感が軽減し、知識も向上した。</p> <p><入居者> ・2人対応が必要であったが、一人移乗が可能の為、ユニットとの時期合わせが無くなり、入居者のタイミングでの移乗が可能になった。 ・入居者の皮下出血が減少した。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人カリヨン福祉会)

事業所名 (グループホームカリヨンの郷「新千秋」)

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介助	マッスルスーツ Every ソフトフィット		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月1日	2台	令和3年10月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・排泄介助 (オムツ交換時) やシート交換時時に使用している。
- ・ベッドから車椅子、車椅子からトイレ移乗など、腰や膝への負担がかかる「中腰」作業時に使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・オムツ交換などの介助で前かがみになる時に、マッスルスーツによるアシストがあるため、介護職員の身体的負担の軽減を実感できた。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社リブラン)
 事業所名 (デイサービス花桃)
 サービス種別 (地域密着型通所介護)

適用を受けた補助率		3/4		1/2
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名		
移動支援		イノフィス マッスルスーツ Every		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間	
令和3年10月20日	4台	令和3年10月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで	

【介護ロボットの使用状況】

車椅子からの移乗時に使用

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

車椅子からの移乗時に職員の腰の負担軽減、二人介助している利用者様が一人介助できるようになった方もおり時間短縮出来るようになりました
 今までトイレ介助が難しい方のトイレ介助が出来るようになった方もおり、利用者様の排便管理が出来やすくなっております

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (丹羽商株式会社)
 事業所名 (ピュアスタイル訪問介護事業所)
 サービス種別 (訪問介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介護	Hug (移乗サポートロボット) MODEL T1-02		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月22日	1台	令和4年2月22日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>移乗介助ロボットを必要とする対象の入居者が退去され現在は使用していません</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防対策において密着せずに移乗できる面では利用者様の満足度は高い ・ 介護職員の移乗介助時の腰痛の軽減及び腰痛による離職の防止につながっている ・ 介護負担の軽減できる職場環境が出来ている ・ 余裕をもって介助できるため移乗時の事故発生は減っている ・ 介護職員の移乗時対応人数を減らすことが出来てほかのケアの充実化につながった 			

(注)

- ・ 導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会医療法人 大雄会)
 事業所名 (老人保健施設 アウン)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介護	移乗サポートロボット Hug T1-02		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月8日	2台	令和3年12月8日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>Hug 2台を、入所フロア内のベッドから車いす間の移乗、車いすからトイレ間への移乗、入浴時車いすからシャワーチェア間等の移乗介助時に使用。</p> <p>《対象ご利用者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己にて移乗がおこなえず、移乗介助において2人体制での介助が必要な利用者 ・ベッド上で端座位可能な利用者 ・職員からの指示理解が可能な利用者 ・麻痺等により肩関節の可動域制限が無い利用者。 <p>現在、5名の利用者に適用。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護時間の短縮。 移乗介助にスタッフ2人体制での介助を要していた利用者に対して、スタッフ1人体制に移行できたことで、もう1人は別の利用者の対応が可能となった。 ・利用者に対する負担軽減 Hugの使用にて、移乗介助時の外傷はゼロになった。 膝の疼痛あった利用者がHUGを使用し排泄出来ている。 ・利用者の満足度の向上 利用者が、立位保持可能となり、「立てる事に対する喜び」を感じている様子が、Hugを使用した際に顔が上向きとなり、表情が明るくなられたようにつながっている。 床上オムツ交換者をHUGを使用しトイレ誘導に変更でき利用者の喜ぶ表情、発言あり。 ・介護従事者の負担軽減 導入後の腰痛による休職、休みはない。 ただし、元々持病として腰痛がある職員の腰痛軽減に至っているかどうかは不明。 			

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2:1	1:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1:1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>【インカムについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① その日の業務従事者が使用。 ② 利用者のナースコールに対してスタッフが重複しないように連絡しあった。 ③ 電話取次ぎの際やその他職員間におけるスタッフ間の呼び出しに使用。 ④ 入浴誘導時、利用者衣類等の不足品を他階スタッフに依頼する時に使用。 ⑤ 介護職が看護職に利用者の情報伝達・確認する際に使用。 ⑥ スタッフの業務開始及び終了時の連絡により、スタッフの所在確認に使用。 <p>【aams について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① フロア内にて伝達講習を実施。 ② 導入6台のうち、順次26名に使用。(現在は、看取りケア3名に使用中。) <p>現状の3名については、生体情報収集・確認、離床センサーとして使用している。 この情報は、他階とも情報共有。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>【Hug の使用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリと連携して移乗介助方法のフローチャートを作成。 その後、移乗方法について対象者を検討した。 ・排泄・入浴・ベッドと車いす間等の移乗介助場面にて一人介助で使用。 ・生体動作の拡大による意欲向上、満足度につなげるために、立位・移乗時に使用。 <p>【インカムの使用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の情報の共有スピードが速くなり、対応が早くなったことによって、利用者の待ち時間短縮となった。 ・利用者のケア方法変更の連絡、家族・リハビリ時間等の連絡を迅速におこなえている。 ・業務に入る際、休憩時間の取得時にその日の責任者を探すことなく、インカムを使用し速やかに休憩に入るようになった。 <p>【aams の使用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生体情報・離床センサー作動情報の共有により、利用者の状態変化の早期対応が可能となった。 ・看取りケア、体調不良者への対応により職員の休憩時間が減少する事は無かった。 ・夜間の睡眠状況、排泄回数を把握し利用者の日中の活動量、夜間の排泄支援に役立てた。 	

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること

【Hug について】

- ・ 今後、使用対象利用者や使用場面の拡大を行う。
(例：リハビリ現場で立位訓練として使用する等。)
利用者の ADL 向上、スタッフの介助量軽減・腰痛予防に繋がると考える。

【インカムについて】

- ・ 利用者の情報共有を迅速に行え、対応が早くなり、利用者の待ち時間短縮による精神面の不安や苦情発生リスクの軽減に繋がると考える。

【aams について】

- ・ 利用者の生体情報および離床センサー作動情報、夜間の睡眠・覚醒状況を職員間で共有することにより、入所フロア全体でのスタッフの相互協力体制の確立が期待できる。
- ・ 夜勤帯の訪室回数の減少により、職員の休憩時間の確保ができる。
- ・ 利用者の生態情報を把握することで、精神的負担軽減になる。
- ・ 夜間の利用者の睡眠状況、排泄回数を把握して日中の活動量と排泄支援について検討できる。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人愛知育児院)
 事業所名 (特別養護老人ホーム南山の郷)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ <u>1 / 2</u>		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介護	移乗サポートロボット ハグ T1-02		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月15日	1台	令和3年12月15日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・二人介助が必要なご利用者のトイレ誘導場面、車椅子、ベッド間の移乗に使用。 ・対象者を増やせるよう状態を確認しながら検討し使用している。 			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) <ul style="list-style-type: none"> ・抱え上げる介助に伴う、ご利用者と介助者双方の負担が軽減できている。 ・ご利用者の状態変化や職員の配置に応じて柔軟に介助方法の選択ができるようになった。 ・二人介助から一人介助へ移行できたことで別のケアを担当することができるようになった。 ・ハグの利用によりトイレでの排泄場面が増えてきた。 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 華陽会)
 事業所名 (サービスネットワーク南陽)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介助	離床アシストベッド リショナー PLUS		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月5日	2	令和3年11月17日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>大柄で体重の重い要介護5の入所者と、看取り期にあり、移乗動作による身体的負担をかけられない方の負担軽減を図りながら、フロアで過ごし他者とのコミュニケーションや気分転換の時間を確保している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>人力による移乗介助によって、内出血や表皮剥離等の外傷ができていた方に使用することで外傷なく移乗介助を行うことができ、安全の確保につながっている。大柄の方を移乗するのに介護職員の身体的負担や精神的負担が軽減した。臥床時間が多くとられていた方が離床することで、他入所者とのコミュニケーションの機会などが増え生活の質の向上につながっている。これまでふたりで行っていた介助がひとりで行えるようになり、生産性向上につながっている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 56 : 1	2. 5 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2. 5 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>移乗の2人介助を一人介助とすることが可能となり、職員のマンパワー不足を軽減した。生産性が向上した。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>利用者の移乗介助時に生じる身体的・精神的負担軽減、活動性の向上。 利用者の移乗介助時に生じる負担や外傷（内出血や表皮隔離）等のリスク、事故の減少。 職員の移乗介助時に生じる身体的・精神的負担軽減及び腰痛予防、改善。 吊り上げリフトを身体的理由で使用できない方への対応ができ、利用者QOLの拡大。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>ノーリフトケアの推進によるリクルート活動。 移乗介助の身体的・精神的な負担を軽減し、腰痛に伴う業務内容の限定、休職・離職の低減。 生産性向上により、介助方法の統一化、安全性と利便性。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 瑞頌会)
 事業所名 (介護老人保健施設かにえ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介助	マッスルスーツ Every ソフトフィット		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月1日	1台	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

入所利用者の車いすへの移乗時、排せつ介助、体位変換のケアを行うときに、職員の腰痛予防、利用者の心身をまもる為のケアを目的に導入し、1年半年程度使用している。
 概ね使用する事には前向きではあるが、中には使用しない方がよいと考えている職員もいる
 初めてマッスルスーツをみる利用者は不安に思っている方もいる為、時間をかけて説明している

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

導入の効果

介護時間の短縮については、安全に行う事を目的としている為、時間短縮までとはっていない
 定期的を使用している職員は腰への負担が減っていると評価はあるが、あまり使用していない職員は加圧、減圧の手間がかかり余計に作業時間がかかる事もある為、継続して活用する様に指導していく

現状では1台しか導入していない為、慣れるまでに時間がかかる

(注)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 絆)
 事業所名 (特別養護老人ホーム愛の里名古屋東)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗アシスト		移乗アシスト SASUKE	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月1日	1台	令和4年2月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】			
<p>(1) 使用場所 2階フロアの4ユニットの利用者を主たる対象</p> <p>(2) 活用場面</p> <p>1) 食事、入浴に行くためにリクライニングチェア、ストレッチャー等への移乗時に活用。</p> <p>2) その他、移動の必要な際に活用</p>			
【介護ロボットの導入効果】			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
1. 利用者移乗介助時の安全面について			
(1) 移乗時における利用者本人の不安が軽減され、若干拒否の認められた利用者もスムーズな移乗が実現した。			
(2) 移乗介護時の介護職員、利用者共に負担、不安が軽減したことにより事故防止にもつながっていることを実感できた。			
(3) 移乗介助時の介護職員の負担軽減し、腰痛予防にも効果が期待できる。			
2. 介護職員の業務改善面について			
(1) 二人介護が必要だった利用者に対して、安全に一人での介護が可能となり、特に夜間帯での他のユニットからの応援も不要となり、大きな業務改善が実現した。			
(2) 日中においても、他の利用者の見守り時間の確保ができ、転倒等の事故回避にも繋がっていると考えている。			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p>	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p>
<p>移乗負荷の高い利用者が多い、2階フロア4ユニットに対しては、他のフロアより2ユニットで非常勤1名程度、フロアとして2名程度の加配で対応。</p>	<p>各ユニット、フロアの介護職員の配置状況そのものは、原則変更せず、これまで手薄になりがちとなっていた面をより強化したいと考えた。</p>
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<p>各ユニット、フロアの介護職員の配置状況そのものは、原則変更せず、これまで手薄になりがちとなっていた面をより強化</p>	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<p>現在、介護記録、職員間の送送り、勤務シフト作成等々、すべて紙ベースのため、介護職員の通常業務の中でも記録に要する時間は膨大なものがある。更に報酬改定に伴うLIFE導入は科学的データ管理が必要不可欠な状況であり、当施設としても、効率的な記録、情報共有、科学的データの集積等々システムの構築が必要不可欠と考え、以下の点を中核として導入に向けた検討を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) タブレット等を活用した入居者情報のリアルタイム入力システム 2) 送送り、伝達事項等々、リアルタイムな情報共有システム 3) 入居者情報の一元化と情報共有システム <p>ICT化を進めることで、介護に従事する時間を確保でき、介護サービスの向上を図ると共に効率的な人材配置が可能となると考えている。</p>	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<p>1. 介護職員の負担軽減の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 移乗介助時等の腰痛予防或いは、悪化防止 (2) 二人介助を要する場合、機器を活用することで一人介護時における移乗時の負荷の軽減、腰痛予防、悪化に向けた取り組み。 <p>2. 利用者に対する自立支援の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用者の意向を確認し、利用者のリズムに合わせた介護への取り組み。 (2) 食事やレクリエーション等々の様々な場面での活用。 	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<p>1. 介護職員の負担軽減の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 移乗介助時等の腰痛予防或いは、悪化防止 (2) 腰痛を起因とする欠勤、休職等を防止し、現場の介護人材の減少を防止する (3) 二人介助を要する場合、機器を活用することで一人介護が実現し、介護人材の効率的配置に繋がり業務改善につなげられる。 (4) 介護職員の負担軽減、腰痛予防を聞かせることで、移乗時における安全性向上につながる。 (5) 移乗時のリスク軽減により、利用者介護における余裕を持って、介護の質の向上が期待できる。 <p>2. 利用者に対する自立支援の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用者の意向を確認し、利用者のリズムに合わせることができ、より安楽な介護を実現することができる。 (2) 食事やレクリエーション等々、移乗後の活動にスムーズに移行することができる。 (3) 移乗時における利用者が抱く様々な精神的な葛藤等々の負担を軽減されることで、利用者自身の離床意欲を高めることができる。 <p>離床の機会が増えることで、日常生活の活性化、自立意欲の向上につなげられる。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (foreStone 株式会社)

事業所名 (えんがわへるぱー)

サービス種別 (訪問介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介助	マッスルスーツ Every エヴリィ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年10月8日	3	令和3年10月8日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 はじめは利用していたが、持ち運びに荷物になるし、脱着の手間等があるため、最近は全く利用しなくなってしまった。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 介護時間は長引いてしまう。負担軽減効果はある。介護従事者の満足度は低め。利用者の満足度は変化なし。ただし、体重の重い利用者を受けた場合は使用する可能性がある。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
体重の重い利用者に対して2人体制でケアをしていた	体重の重い利用者に対して1人体制でケアが出来る
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
体重の重い利用者がいた場合でも1人体制でケアが出来る	
②と③が異なる場合はその理由	
現在必要とする利用者がいないため、使用していない	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
認知があり歩行が不安定な方のベッドから立ち上がりを見守りセンサーにて確認をしている。介護ワトはカイボケを利用し平常時の介護記録もタブレットへの打ち込みで、記録の読み返し等もタブレットで容易に確認できる。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
介護記録をタブレット管理する事で、利用者の体調管理を細かく把握する事ができる。確認も容易に出来るため、書類を探す手間等が短縮出来、職員の負担軽減の一助にもなる。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
2人体制でケアを行わなければならない利用者に対して、1人体制でケアができる	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人信愛会)
 事業所名 (介護老人保健施設おとわの杜)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ ① / ②		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介助	HAL腰タイプ介護・自立支援用		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月1日	1台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・介助の補助としての使用だが、アシストをうまく活用できていない職員が多く、一部の職員のみで使用している。
- ・介助の補助として主に夜勤帯（介護士、看護師）での使用をしている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・装着により、長時間のオムツ交換の負担軽減に繋がっている。
- ・疲労により腰痛が出た際、一定期間使用することで、身体を休め、回復することができる。
- ・HAL腰タイプは上半身がフリーとなるため、ロボットのアシストによる体への負担も少なく、痛みも少ない為、装着によるストレスが少ない。
- ・装着したまま、狭い隙間へも入っていける為、装着していても、ベッド周りの移動が行えるので、気にせず動くことができる
- ・装着することで正しい姿勢が身につき、姿勢がよくなる。
- ・ロボットの導入により、腰に不安を抱えた人材も安心して働ける環境に繋がっている。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。